

平成17年6月30日

水産庁

独立行政法人 水産総合研究センター

瀬戸内海区水産研究所

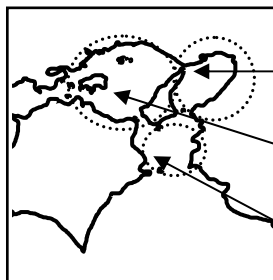
瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報(7～8月)

- 平成17年6月23日～6月30日においてFAX等による連絡をもとに別表の水産関係機関が検討し、独立行政法人水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 -

今後の見通し(2005年7月～8月)

漁場への来遊量予測(カタクチイワシ)

瀬戸内海東部海域でのシラスは不漁であった前年並みか、前年を下回る。
大阪湾での小・中羽は好漁であった前年を下回る。



シラス

大阪湾では不漁であった前年並みか、前年を下回る。

シラス

播磨灘では不漁であった前年並みか、前年を下回る。

シラス

紀伊水道では不漁であった前年並みか、前年を下回る。

1. 本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)及び瀬戸内海区水産研究所のホームページ(<http://www.nnf.affrc.go.jp/>)に掲載されます。

2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当：青木、田中、笠原

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

電話：03-3502-8111(内線7376)、直通電話：03-3501-5098、ファックス：03-3592-0759

電子メール：chikage_tanaka@nm.maff.go.jp

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 企画連絡室

〒739-0452 広島県佐伯郡大野町丸石 2-17-5

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216、電子メール：feis-kiren@ml.affrc.go.jp

参 画 機 関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場

大阪府立水産試験場

兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター

岡山県水産試験場

香川県水産試験場

徳島県立農林水産総合技術支援センター 試験研究部 水産研究所

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 生産環境部

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し(2005年7~8月)

(1) シラス(本年夏季発生群)

紀伊水道、大阪湾、播磨灘では不漁であった前年並みか前年を下回る。

標本漁協の漁獲量から推定した灘毎の漁獲量を指標とし(図1~3)、1985~2004年の平均値を平年値とした。

(2) 小・中羽(本年春季発生群)

大阪湾では好漁であった前年を下回る。

巾着網標本船の漁獲量を指標とし(図4)、1985~2004年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過(2005年4月~2005年6月)および見通しについての説明

(1) シラス漁況

2005年4月~2005年6月

紀伊水道東部(和歌山県側)では4~5月の漁獲量は前年の28%、平年の50%と低い水準であった。4月は前年の4%、平年の11%であり、前年、平年を大きく下回った。5月は前年が不漁であったため、前年の779%となったが、平年並みの110%であった。6月に入ると漁獲量は減少したものの漁は継続している。

紀伊水道西部(徳島県側)では4月から6月上旬までの漁獲量は前年の44%、平年の30%であった。5月は前年の67%、平年の23%と前年、平年を下回った。6月上旬の漁獲量も前年の22%、平年の8%と低調であった。また6月13日の1日1隻あたりの漁獲量が、低水準であった6月上旬よりもさらに減少したため、漁業者は自主的に休漁日を設けて出漁を制限している。

大阪湾では4月25日に漁が始まった。標本漁協の4月の漁獲量は前年の1%、平年の6%であり、前年、平年を大きく下回った。5月も前年の6%、平年の13%であり、前年、平年を大きく下回った。6月に入ると大阪湾内で発生したと考えられる小型の個体がみられ始め、漁は上向いている。

播磨灘東部(兵庫県側)ではシラスが魚群探知機に映らないので5月中の出漁は取りやめとなった。6月4日から開始したが漁が低調なため、一部の地区は休漁となった。休漁した地区では6月13日に再び出漁したが、漁獲量が少なく、19日まで再び休漁となった。再開した20日には1統当たり5カゴ程度であったが、月末にかけて30カゴ程度漁獲される日も見られるようになった。

播磨灘南西部(香川県側)では6月1日から漁が始まったが、漁模様は低調である。

播磨灘北西部(岡山県側)では5月20日から漁が始まった。5月、6月とも低調に推移している。

(2) 産卵量

紀伊水道、紀伊水道外域では5月は前年、平年を下回った。6月は紀伊水道東部で前年、平年を下回ったが、紀伊水道西部や紀伊水道外域では前年、平年を上回った。

大阪湾では5月は前年の42%、平年の60%と少なく、6月も前年の16%、平年の16%と前年、平年を大きく下回った。

播磨灘では6月は前年、平年を大きく下回った(香川、兵庫、徳島調査集計;(図5))。

(3) 今後の見通しの説明

シラス(本年夏季発生群)

紀伊水道では、6月に入って高知沖と紀伊水道沖で黒潮が接岸傾向にあるものの産卵盛期を過ぎているので、春季の黒潮接岸時のような卵稚仔の加入は期待できない。7月以降に漁が本格化した2002年と比較すると、6月の紀伊水道での卵の出現量は全体的に少ない。紀伊水道外域でのシラス漁は4月に好漁であったが、5月下旬にとぎれた。紀伊水道でも4月の一時期以外はふるわず、6月に入ってさらに漁獲の少な

い状況が続いている。

大阪湾では外海発生群が春から引き続き漁獲されるのに加え、内海発生群が6月以降シラスとして漁獲されるようになる。経験的に外海発生群の補給の多さが大阪湾の好不漁を決定すると考えられる。外海発生群の大阪湾への補給は潮岬沖で黒潮が離岸していること、補給路である紀伊水道和歌山県側での漁が低調に推移していることからほとんど期待できない。6月に入って漁が上向いているものの、大阪湾内での卵の出現状況から内海発生群は前年並みかやや下回ると考えられる。

内海発生群が漁の主体である播磨灘においては、6月の水温が低いほど7~8月の漁獲量が多くなる傾向がある(図6)。また明瞭でないものの6月の産卵量が多いほど7~8月の漁獲量が多くなる傾向がある(図6)。2005年6月の水温はやや高い程度であったが、産卵量は極めて少なく(図5)、水温と産卵量から予測した漁獲量は前年並みとなった(図6)。播磨灘での漁は6月下旬になってやや上向いているものの低調に推移しており、漁模様が好転する可能性は低いと考えられる。

小・中羽(本年春季発生群)

大阪湾では、本年春シラス漁で対象となった群れが成長し小・中羽となって漁の対象となる。本年春シラス漁は前年、平年を大きく下回った。また現在のカクチイワシの滞留量も多くない。

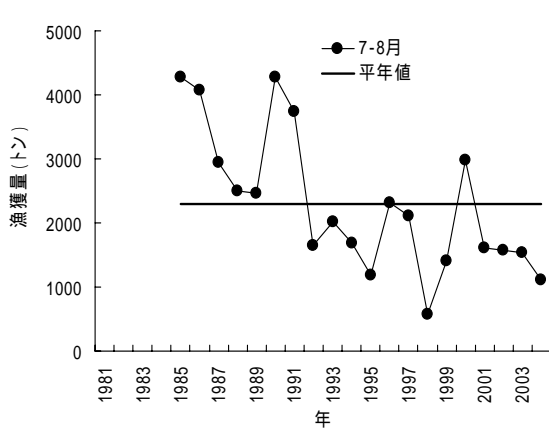


図1 紀伊水道のシラス漁獲量

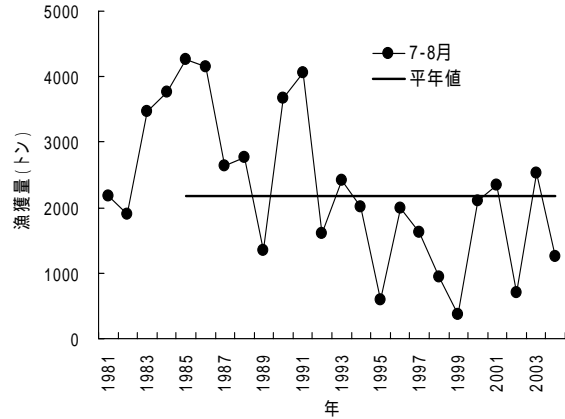


図2 大阪湾のシラス漁獲量

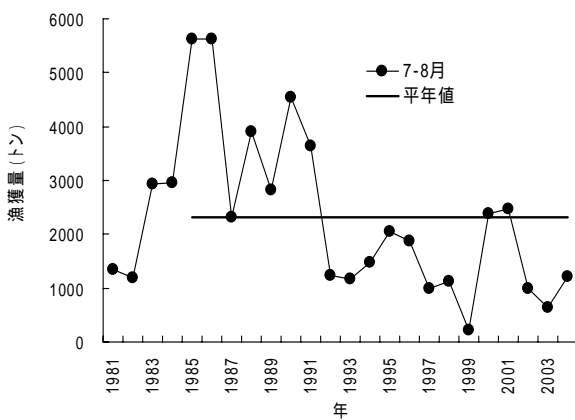


図3 播磨灘のシラス漁獲量

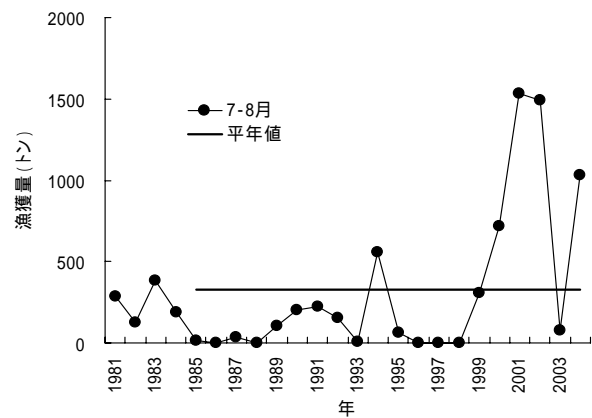


図4 大阪湾の巾着網標本船のカクチイワシ漁獲量

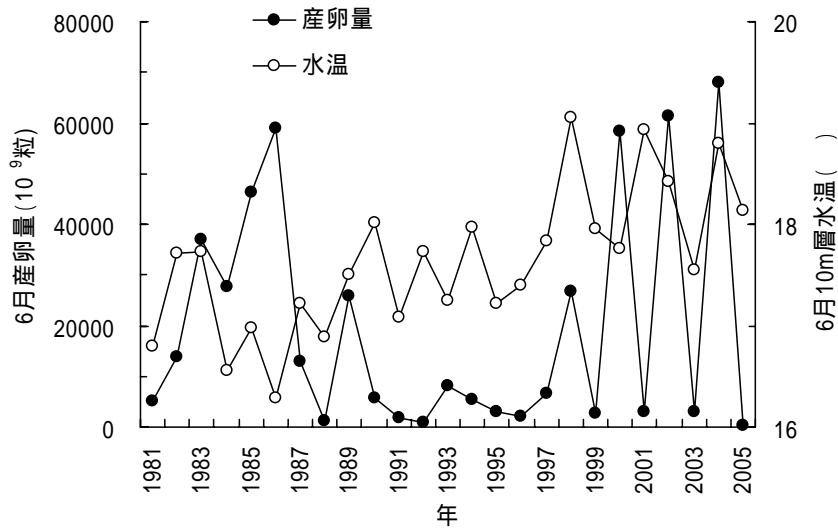


図5 播磨灘の6月の産卵量、10m層水温

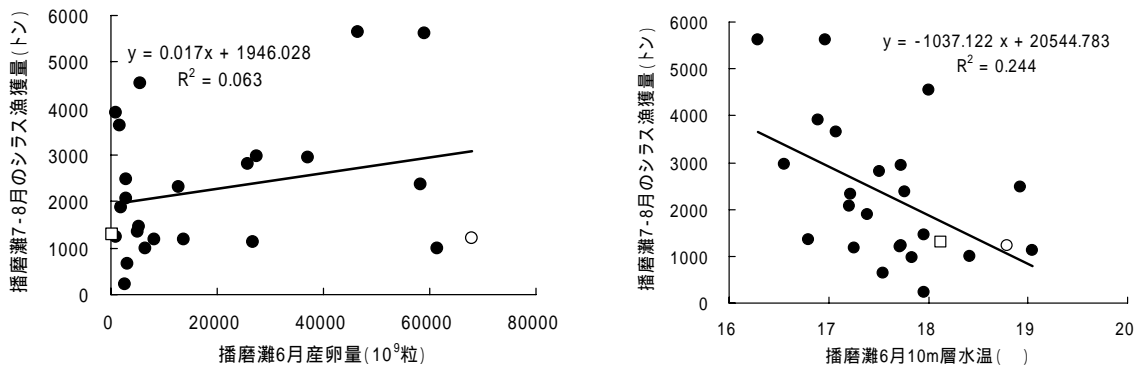


図6 播磨灘における6月10m層水温と7-8月のシラス漁獲量との関係(左図)および6月産卵量と7-8月のシラス漁獲量との関係(右図)、 \square は2004年、 \square は2005年予測値、2005年予測値は産卵量と水温から求めているため各図の回帰直線上にない